様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月１８日現在

機関番号：84302
研究種目：基盤研究（A）
研究期間：平成 21 年度～平成 24 年度
課題番号：21242005
研究課題名（和文）：東西文化の磁場―日本近代建築・デザイン・工芸の脱―、超―領域的作用史の基盤研究
研究課題名（英文）：Mutual Attraction between Oriental and Western Culture
研究代表者　山野　英嗣
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・課長
研究者番号：10280603

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本近代における建築、デザイン、工芸を対象としながらも、ジャンルを超え、そして国境を超えた動向について総合的に検証したものである。研究成果は、最終的に一冊の図書としてまとめた他、研究代表者が所属する美術館においても展覧会やシンポジウムを開催し、研究成果を広く発信した。東西の文化交流、そしてジャンル間を交差する表現への注目など、時宜を得たテーマとして、建築、デザインそして工芸の各領域において、新たな視点が提言されたと思われる。

研究成果の概要（英文）：This study intends for architecture, design and crafts of modern movement in Japan beyond these genres synthetically. We finally published the results of this study as one book, and held exhibitions and symposiums in the National Museum of Modern Art, Kyoto. It is thought that we were able to submit a new point of view as a timely theme on the Oriental and Western culture.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	9,600,000	2,880,000	12,480,000
２０１０年度	8,100,000	2,430,000	10,530,000
２０１１年度	8,100,000	2,430,000	10,530,000
２０１２年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
年度			
総　計	31,500,000	9,450,000	40,950,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般
キーワード：日本近代、建築、デザイン、工芸、近代工芸概念、日本と西洋

１．研究開始当初の背景

（１）本研究は研究開始当初、京都国立近代美術館長・岩城見一氏が研究代表者となって発案され、主に美術館に勤務する研究者、並びに展覧会等で協力を得た大学他に所属する研究員が中心となって研究をすすめたものである。

（２）岩城見一氏が館長を退任した後は、研究分担者のひとりであり、当時は京都国立近代美術館主任研究員であった山野英嗣に研究代表者を交代し、その後は山野の主導によって研究を継続して行った。とりわけ本研究の分担者には、（１）でも記したように美術館に所属する研究者も数多いことから、主に展覧会、並びに展覧会と連動するシンポジウムなどを活用して、研究成果の発信にもつとめようとしたことが、本研究開始当初の背景にある。

２．研究の目的

（１）近代以後の日本文化は、いわゆる「東

西文化の磁場」に投げ込まれ、両文化の磁力の拮抗の中でその都度姿を変えてきたといって過言ではない。このことについては、すでにこれまで開催したいくつかの展覧会でも明らかにされているが、本研究はさらに展覧会を超えて、シンポジウムや各研究分担者が執筆する論文や学会発表によっても、本研究テーマを広く発信することをその第一の目的とした。

（２）加えて最終的には、科研費評定基準にも掲げられている「社会・国民に発信する方法」として、本研究も最終報告の一端として、一冊の書物にまとめることをふたつ目の目的とした。

３．研究の方法

（１）「２．研究の目的」（１）でも記したように、本研究は、ひとつに展覧会という研究発表を基盤としている。そのために「研究の方法」としては、具体的に本研究テーマに則した展覧会の開催、並びに展覧会会期中に企画するシンポジウムがあげられる。研究初年度には、京都国立近代美術館で開催した〈京都学　前衛都市モダニズムの京都〉展に際して、「『東西文化』の交流から見た一九世紀末京都における一動向」と題したシンポジウムを開催し、その内容については、京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』第３号(2010 年 12 月発行)に公表した。また、2010 年 11 月 7 日には、京都国立近代美術館が協力してパリの日本文化会館で開催された展覧会〈近代日本工芸　1900-1930〉に際しても、「東西文化の磁場」と銘打ったシンポジウムを企画し、その概要と発表内容については上記研究論集第 4 号（2012 年 2 月発行）に掲載するなど、展覧会と連動した「研究の方法」を駆使して研究を遂行していった。

（２）加えて以下の「５．主な発表論文」にも記すように、研究分担者においても科研費による海外出張を基盤にした「研究の方法」によって、その成果を図書や雑誌論文等によって公表した。最終的には、最終年度（24 年度）の３月末に、国書刊行会から『東西文化の磁場　日本近代の建築・デザイン・工芸における境界的作用史の研究』と題した図書を、研究代表者の編集によって出版し、広く国民にもその成果を発信できるようにした。

４．研究成果

（１）「２．研究の目的」並びに「３．研究の方法」の（２）でも記したように、「研究成果」の第一としては、図書の出版が挙げられるだろう。本研究代表者による編集によって、前研究代表者である岩城見一氏も執筆陣に加わり、ほぼ半数の 11 名が投稿した。図書として公刊されるため、出版社の編集者による助言等もあり、充実した内容になったと思われる。

（２）展覧会やシンポジウムの開催では、美術館や文化会館を会場として、専門的研究者だけではなく、一般の来館者に対しても、本研究の意義を広く伝えられたことも有益であった。

（３）研究内容における具体的な成果としては、建築、デザイン、工芸というそれぞれのジャンルの研究者が、ひとつの共通テーマで論じ合うことの意義は深く、各ジャンルがまさにハイブリッドなかたちで共存していることが、「研究成果」として実現されたと思われる。

（４）当然のことではあるが、４か年にわたる「研究成果」を、年度ごとに研究代表者が所属する美術館の研究論集を活用して発信し、最終年には研究テーマを冠した図書を刊行するなど、つねに国民に向けてその成果を明らかにできるように努めた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 74 件）

① 池田祐子、世紀末転換期の〈植物表現〉－ユーゲントシュテールからモダンデザインへ－、言語文化（明治学院大学言語学文化研究所紀要)、査読有、Vol.30、2013、pp.145-160
② 並木誠士、「秀松」印扇面貼交屏風、聚美、査読無、2012、pp.110-115
③ 川島智生、近代における慰霊建築の成立とその形―震災記念あるいは大火慰霊堂という建築類型―、京都華頂大学紀要、査読無、Vol.56、2012、pp.17-40
④ 山野英嗣、パリ日本文化会館におけるシンポジウム「東西文化の磁場」について、京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』、査読無、Vol.4、2012、pp.64-66
⑤ 中川克志、音楽家クリスチャン・マークレイ試論―ケージとの距離、文学・芸術・文化、査読無、Vol.22-2、2011、pp.107-130
⑥ 中川理、「まがいもの」の風景を考える、建築雑誌（日本建築学会)、査読無、Vol.125-1608、2010、pp.24-25
⑦ 廣田孝、明治後半期　海外万国博覧会出品作品の制作過程と意義―高島屋の染織作品を考察する―、京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』、査読無、Vol.3、2010、pp.84-93
⑧ 増田聡、水に歴史はない、ユリイカ、査

読無、Vol.42-10、2010、pp.162-166
⑨ 池田祐子、海外所蔵の日本の型紙の調査研究―チェコとハンガリー、京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』、査読無、Vol.3、2010、pp.64-70
⑩ 山野英嗣、上野伊三郎、日本インターナショナル建築会とバウハウス、京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』、査読有、Vol.3、2010、pp.44-53
⑪ 河上繁樹、復元から見た『当世早流雛形』の染織技法、民族藝術、査読有、Vol.26、2010、pp.79-85
⑫ 加藤哲弘、オリジナルとその保存―文化財アーカイブの可能性と限界―、“オリジナル”の行方―アーカイブ構築のために―、査読無、2010、pp.259-290
⑬ 藪亨、アーツ・アンド・クラフツと産業美術、京都国立近代美術館ニュース『視る』、査読無、Vol.438、2009、pp.6-8
⑭ 新見隆、触角のユートピア―柚木沙弥郎に、季刊『銀花』、査読無、Vol.160、2009、pp.70-74
⑮ 並木誠士、Recent tendency in art museum education in Japan、美術館教育的伝統與創新（International Symposium on Art Museum Education,2009）、査読無、2009、pp.40-50
⑯ 西川博美、中川理、The Research and Study about the Exposed Side-walls Which are changing the Historical Scenery in Kyoto、International Conference on East Asian Architectural Culture, Tainan, Taiwan、査読有、2009、pp.239-248
⑰ 前田富士男、ゲーテの建築形態学―薄明と差延（Abweichung）、モルフォロギア、査読有、Vol.31、2009、pp.2-23
⑱ 稲賀繁美、蘇生する石　跳梁する魂、モノ学　感覚価値研究会年報、査読有、Vol.4、2009、pp.84-91
⑲ 池田祐子、海外所蔵の日本の染型紙の調査研究―ドレスデンを中心に、京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』、査読有、Vol.2、2009、pp.28-39
⑳ 山野英嗣、上野伊三郎・リチの「造形意志」、京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』、査読有、Vol.2、2009、pp.16-28

〔学会発表〕（計 33 件）
① シンポジウム「東西文化の磁場」
於ローマ日本文化会館（伊）、2013 年 2 月 26 日
尾崎正明、松原龍一、廣田孝、ロッセッラ・メネガッツォ
② パネルディスカッション「型紙を通して見えてきた世界と日本」
於京都国立近代美術館、2012 年 7 月 12 日
馬渕明子、高木陽子、長崎巌、池田祐子
③ シンポジウム「東西文化の磁場―伝統を考える」
於京都国立近代美術館、2011 年 10 月 22 日
岩城見一、佐々木正直、北村武資、森口邦彦、室瀬和美、松原龍一
④ シンポジウム「東西文化の磁場」
於パリ日本文化会館、2010 年 11 月 7 日
１）松原龍一「パリで開催された二つの万国博覧会と近代日本工芸 1900-1930」
２）尾崎正明「レオナール・フジタと日本画壇」
３）出川哲朗「明治、大正期の陶芸作家による、伝統と革新の挟間での中国古陶磁器の倣製品の制作について」
４）稲賀繁美「工藝的思考と触覚的契機」
５）加藤哲弘「装飾における日本的なもの」
⑤ シンポジウム「『東西文化』交流の視点から見た 19 世紀末京都における一動向」
於京都国立近代美術館、2009 年 11 月 7 日
１）アリス・ツェン「黒田清輝《朝妝》と第四回内国勧業博覧会」
２）川島智生「伊藤忠太と平安神宮」
３）廣田孝「明治後半期、海外万国博覧会出品作品の制作過程と意義」
４）松原龍一「ゴットフリート・ワグネルと京都」

〔図書〕（計 28 件）
① 山野英嗣、国書刊行会、東西文化の磁場 日本近代の建築・デザイン・工芸における境界的作用史の研究、2013、356 頁
② 稲賀繁美、ミネルヴァ書房、東洋意識：夢想と現実のあいだ　1887-1953、2012、594 頁
③ 廣田孝、京都女子大学、明治大正期に高島屋が制作した染織作品の研究、2012、75 頁
④ 前田富士男、慶応義塾大学出版会、リスクの誘惑、2011、240 頁
⑤ 河上繁樹、新人物往来社、日本個性　「歴史」から「現在」を読み解くための 9 章、2011、208 頁
⑥ 川島智生、淡交社、近代楢の建築家・岩崎平太郎の仕事－武田五一・亀岡末吉とともに－、2011、160 頁
⑦ 山野英嗣、ゆまに書房、コレクションモダン都市文化 44　デザインとバウハウス、2009 年、722 頁

〔その他〕
ホームページ等
http://www.momak.go.jp
すべて京都国立近代美術館のホームページを活用し、[学会発表]の項目に記したシンポジウムの内容、並びに[雑誌論文]の項目に記した同館の研究論集『CROSS SECTIONS』に掲載された論文についても、執筆者と論題を研究代表者が所属するホームページ上に公表した。

６．研究組織
(1)研究代表者（2名）
山野　英嗣（YAMANO　HIDETSUGU）
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・課長
研究者番号：10280603
岩城　見一（IWAKI　KENNICHI）
研究者番号：40025086
(2)研究分担者（19名）
尾﨑　正明（OZAKI　MASAAKI）
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・館長
研究者番号：00113423
稲賀　繁美（INAGA　SHIGEMI）
国際日本文化研究センター・研究部・教授
研究者番号：40203195
川島智生（KAWASHIMA　TOMOO）
京都華頂大学・現代家政学部・教授
研究者番号：60534360
加藤哲弘（KATO　TETSUHIRO）
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：60152724
河上繁樹（KAWAKAMI　SHIGEKI）
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：10224734
中川　理（NAKAGAWA　OSAMU）
京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・教授
研究者番号：60212081
並木誠士（NAMIKI　SEISHI）
京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・教授
研究者番号：50211446
廣田　孝（HIROTA　TAKASHI）
京都女子大学・家政学部・教授
研究者番号：50298684
前田　富士男（MAEDA　FUJIO）
中部大学・人文学部・教授
研究者番号：90118836
増田　聡（MASUDA　SATOSHI）
大阪市立大学・文学研究科・准教授
研究者番号：50325304
藪　亨（YABU　TOORU）
大阪芸術大学・芸術学部・教授
研究者番号：70133519
新見　隆（NIIMI　TAKASHI）
武蔵野美術大学・造形学部・教授
研究者番号：20318637
出川　哲朗（DEGAWA　TETUROU）
（財）大阪市博物館協会・大阪市立東洋陶磁美術館・館長
中川　克志（NAKAGAWA　KATUSHI）
横浜国立大学・都市イノベーション研究院・准教授
研究者番号：20464208
松原　龍一（MATSUBARA　RYUICHI）
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・主任研究員
研究者番号：40270491
池田　祐子（IKEDA　YUKO）
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・主任研究員
研究者番号：50270492
小倉　実子（OGURA JITSUKO）
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・主任研究員
研究者番号：70311214
牧口　千夏（MAKIGUCHI　CHINATSU）
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・研究員
研究者番号：90443465
中尾　優衣（NAKAO　YUI）
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・研究員
研究者番号：00443466
河本　信治（KOHMOTO　SHINJI）
独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館・学芸課・客員研究員
研究者番号：10150062

(3)連携研究者
なし。